

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

2018 年 9 月 25 日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 30 — 001
 名 称 こむ net ちば
 所在地 印西市若萩
 代表者職氏名 代表 安齋 美幸 印
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	訪問傾聴ワーカー(見守り隊)養成講座
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	今年 10 万人を超え、若い世代が増える一方で、高齢化率が 40%を超える地域もある。アンケート(民生委員対象)によると、高齢者への支援(81.1%)が市民からの要望で一番多く、後継者がいないこと(66%)、地域コミュニティの希薄化、地域との情報交換が少ないことが、困っている。地域包括支援センターは各圏域にあるが、どこに相談をして良いかわからない高齢者や話し相手になって欲しい高齢者もある。よって、コミュニティが希薄になっており、支援の手も足りないが、高齢者支援は市民から必要とされている現状があり、課題と考える。
提案理由	現状から <u>高齢者の社会的孤立防止のために</u> 、今回、定期的に訪問傾聴をし、何かあれば制度やサービス機関、窓口につなぐ社会資源が必要と考えた。
提案内容 (予算の概算も記入)	高齢者へのボランティアとして必要な知識(ボランティア論、障害者、高齢者理解)や傾聴で必要な知識(傾聴、精神疾患への傾聴)を学び、課題があれば、窓口につなげられるよう、制度等も学び、訪問傾聴+ワーカーができる人材を養成することを提案する。(予算 50 万円)
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)	発達障害理解講演会(6 月 9 日)、ジェンダー講演会(10 月 20 日予定)等を企画運営しており、毎月 2 回あるカフェも、1 月から始め 7 月までに、12 回の講座やワークショップを開催。社会福祉士、産業カウンセラーの有資格者もあり、松戸市、流山市、新宿区など的高齢者や生活困窮者等の支援団体、ジェンダーの団体とも繋がっている。講師も依頼予定、打診済み。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)	事業実施後は、高齢者支援をする社会資源の 1 つとなり、民生委員の補完的な存在にもなり得る。北部、南部、船穂・牧の原などの地域包括支援センターと連携し、定期的に訪問傾聴をすることで、認知症や詐欺の早期発見などにも繋がる。 また、昨今、包括支援センターでは、高齢者相談から、子どものひきこもり等の相談もあると聞くため、そうした家族に対して、生活困窮者自立支援事業との連携も可能と考える。

(提案書 様式②)

協働事業計画書			
事業名	訪問傾聴ワーカー(見守り隊)養成講座事業		
事業の目的	印西市の現状から、高齢者の社会的孤立防止のために、今回、定期的に訪問傾聴をし、何かあれば制度やサービス機関、窓口に繋ぐ訪問傾聴ワーカー(見守り隊)の養成を目的とする。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 地域ぐるみで高齢者を支える見守り・予防・介護の仕組みづくり (部署名) 高齢者福祉課		
事業期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～ 平成 32 年 3 月 31 日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	・ 講座プログラムの作成 ・ 参加者募集 ・ 講座・研修の実施 ・ 情報提供 ・ 参加募集受付	・ 地域福祉に関する情報提供 ・ 参加者の募集協力 ・ 必要機材の調達・貸出 ・ 市公共施設の提供 ・ 関係機関との調整・仲介 ・ 講師協力	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	67,800 円	633,100 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	実績ある講師を招き、団体内の有資格者(社会福祉士、産業カウンセラー、ヘルパー、行政書士等)と情報を共有し、専門性を活かして講座の企画をする。講座の運営自体は団体が担う。		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	今まで高齢関係、金銭教育、発達障害、などの講座を運営してきた実績を活かし、市との協働により、事業の信頼度が上がる。	・ 受講者は、制度を知ることが地域活動を活かすことができる。 ・ 制度を知る市民が地域に存在することで、市民にとって安心・安全の場となる。	ますます高齢化が進む中、福祉的人材を育てることができる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	募集状況、講座の進捗状況など、市への報告とともに、講座前などは定期的に会議を行い、その他、メールで補う。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	市広報・HP 等に募集掲載をする他、公共施設等へのチラシを設置する。 募集人数は、30 名程とし、講座終了後の訪問傾聴ワーカー(見守り隊)としての活動のための登録を条件とする。講座プログラムについては、別紙参照。		
備考	関係団体等		
	その他(添付書類等)		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 2,125,900 円

市から団体への委託費 （金 633,100 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費、報償費、旅費、印刷製本費、消耗品費、通信費	633,100
その他収入	参加費 1000 円(保険料、一部食糧費 13,200 円含む)×30 人	30,000
提案者負担分	一部食糧費	67,800
無償労働力等換算金額		(1,395,000)
合 計（無償分を含めない）		730,900 円
無償分を含めた合計額		(2,125,900)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費(※)	内部講師料(40,000 円)、会員交通費(19,500 円)、 事前交通費(9,000 円)、講座補助費(129,600 円) プログラム作成費(210,600 円)	408,700
報償費(※)	外部講師指導謝礼 5 回*20,000 円、2 回*15,000 円	130,000
旅費(※)	外部講師交通費 5 回*3,000 円	15,000
印刷製本費(※)	周知チラシ(6000 枚)、資料印刷、ワーク材料費等	30,000
消耗品費(※)	えんたくん、修了証用紙、インク代、ネームプレート他	32,000
通信費(※)	切手代 92 円×30 人分×5 回分、120 円×30 人分	17,400
食糧費	講師昼食代(1500 円×7 人分)、飲み物代(150 円×15 個)、参加者飲み物代(150 円×30 人×13 回)、参加者 飴等(500 円×13 回)等	81,000
保険料	ボランティア イベント保険 20 回*28 円*30 名	16,800
提案者が負担する 無償労働力	900 円*5 時間*60 日*5 名=1,350,000 円 (事前の準備・調整 チラシ配布等 含む)	(1,350,000)
提案者が負担する 無償機材等	車両 500 円*30 日*3 台=45,000 円	(45,000)
合 計（無償分を含めない）		730,900
無償分を含めた合計額		(2,125,900)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
4月上旬	市との打ち合わせ、契約	3名
5月上旬	参加者募集	3名
6月上旬	参加者決定、担当等詳細計画の決定	4名
6月中旬	講座実施(月2回、もしくは週1回)計11回	各回3名
8月中旬	市への中間報告	2名
10月中旬	講座修了生での施設にて、傾聴ボランティア	2名
12月	フォローアップ講座	
3月	フォローアップ講座	
4月～翌年3月	市との月例打合せ 4月(チラシ等打合せ)、5月、6月、7月、8月、9月、11月、2月 計7回	各回3名

訪問傾聴ワーカー(見守り隊)養成講座 8回目以外、全てワークショップ形式

※ グループ形成をしやすくするため、全講座、始まりのチェックイン後、15分ほどの簡単なワークショップをし、
終わりも15分ほど、ボランティアについての注意事項等をした後、チェックアウトをし、シェアをする。

◎第1回 オリエンテーション(自己紹介等 簡単なワークショップ)

ボランティアってなあに？

ファシリテーター 影山貴大さん

内容－ボランティアだからって、やりたくないことはやらなくて良いの？

なぜ、ボランティアをしたいのか？など、ボランティアとはどんなものかについて学ぶ。

◎第2回 自分の中のバイアス

ファシリテーター 影山貴大さん

内容－自分の中、どんなバイアスがあるかを知る

◎第3回 障害者理解

障害者相談センター

内容－目に見えない障がいである精神障害の理解

◎第4回 高齢者理解

高齢者施設(六親会)

内容－高齢者がどんな心理でいるか、認知症について学ぶ。

◎第5回 傾聴ってなあに？

講師 奥野典子さん(産業カウンセラー)

内容－基本的な傾聴について学ぶ

◎第6回 傾聴ってなあに？～精神疾患、高齢者編～ 講師 奥野典子さん(産業カウンセラー)

内容－精神疾患の方や高齢者への傾聴の仕方を学ぶ

◎第7回 やってみよう！

内容－実際に高齢者施設などで、傾聴をやってみる。

一日で終わらせるのではなく、何日かに分ける。特養での受け入れ可能かを確認(高齢者福祉課)
障害者施設での傾聴も要検討。特養だと、認知症が進んでいる方が多いため、実習ではハードルが高いのではないかな？実習はデイサービスの方が良いのではないかな。

◎第8回 印西市の制度、サービスを知ろう！(午前・午後)

講師 印西市高齢者福祉課、障がい福祉課、社会福祉課、社協(久本さん、西畑さん)

内容－印西市の制度やサービスについて学ぶ

◎第9回 事例検討のワーク

講師 千葉さん(一般社団法人コレカラ・サポート)→もしくは、千葉県社会福祉士会

内容－3つの事例を通して、どう動いたら良いかをみんなで検討する。

①低所得の高齢者のケース(独居)、②子どもが引きこもり、もしくは障がいがあるケース(家族)

③認知症の疑いがあるケース(独居)

◎第10回 ロープレ、事例検討を含めた総復習、理解度確認テスト

内容－総復習とともに、傾聴の実技、事例検討の総復習と確認試験あり

確認テストでできなかったところ等、年度内にフォロー講座を開催予定

◎第11回 修了式 登録式

内容－修了式後、登録式

理解度確認テストにて、習熟度が低かった部分を重点的に、フォローアップ講座を年内、翌年 3 月あたりに行う。その際、傾聴のワークもする予定。

企画提案型協働事業 訪問傾聴（見守り隊）養成講座 平成30年度最終審査 委員会総合意見

- 1 時代のニーズに沿った、実現性のある企画提案として評価します。協力者を増やし、制度のすき間を埋める優れた取り組みとなるよう期待します。
- 2 市や関連団体と連携して、養成した人材が地域で活躍できる仕組みづくりを検討してください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

行政制度をカバーする事業として期待します！

- ・時代のニーズにあった事業であると思います。受講者の輪が広がることを期待します。
- ・地域や高齢者のニーズは十分ある。
- ・実現性のある計画だと思います。
- ・市の関係部内との連携も十分取られているようであるので、うまくゆくと思います。
- ・制度のすき間をうめる活動として先行事例（他地域のモデル）となるようすすめて下さい。
- ・行政の制度だけでカバー出来ないことが多くあると思う。活動を通じて賛同者、協力者を増やしてほしい。

講座受講者について

- ・講座受講者の参加について、印西市のどの地域を対象とされているかを明確にして下さい（初年度）
- ・立派なカリキュラムだと思いますが、受講される方達のメリットが少なすぎるような気がする。

担い手を増やす

- ・立ち上げ後、ボランティアが長続きするような工夫が必要だと思う。
- ・ご苦労が多い分野であるので、近隣の活動団体とも連携してほしい。

講座終了後の方策を具体的に描いてほしい

- ・養成講座終了後のスキーム・システムを早いうちに構築して下さい。
- ・実施後の訪問傾聴ワーカーの具体的な活動方法を明確にしてください。
- ・将来構想についてもう少し具体的に描いて下さい。必要性は非常にあると思います。
- ・人材の育成は重要ですが、人材の活用が明確でないと効果が十分発揮できません。2～3年目のありたい姿の明確化と、それに向けた1～3年のロードマップを描いて、活動を推進してください。
- ・講座修了者が速やかに地域での活動を行うことができるよう、本事業と並行して諸問題の整理・解消を計画的に進めて下さい。
- ・個人情報保護法等懸念される課題について、具体的対策が先送りされている。今後の課題としたまま事業のみ進めるのは不安がある。

（提案書 様式①－2）

協働の機会提案書（継続提案用）

平成30年 9 月 25 日

印西市長

様

（登録者）登録番号 23—003

名 称 NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会

所在地 印西市木刈

代表者職氏名 理事長 矢野眞理 ㊞

連絡先 白井市大山口

電話：

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	武西の里山 保全と調査事業
現状・課題 （前年度の実施を踏 まえた課題）	平成30年度の調査により、植物やそれにつながる動物、また両性類などの姿がより鮮明になってきました。これにより、どこをどのようにいつ保全することが、生物多様性を維持し育むことになるのか、保全方法についての手掛かりが見えてきました。また、印西市との協働により、草刈り作業を今までよりも広く行うことができるようになり、クズやセイタカアワダチソウが繁茂してしまったエリアを在来植物が芽吹きやすくなるような環境に整えることができました。 昔、人の生活と生き物が共生していた里山。人の生活様式が変わり、里山と人のかかわりが薄くなってしまった今、里山環境を守る保全活動は、なくてはならないものです。協働事業を通して得た経験を積み上げ、その結果を生かして、多様性を守る管理方法やルールを作り、市民が参加しやすい方法を確立する必要があります。 また、今後、人が入ることのリスクを、どのように自然との共生につなげていくか。どのようにグリーンインフラとして地域の環境に利する活用計画をつくっていけるかという課題があります。
提案理由	印西市との協働事業が進むにしたがい、今まで以上に武西の里山の保全・調査について意思疎通、作業協力が可能になりました。里山を保全するための課題を乗り越えるには、さらに経験と調査結果を積む必要があります。協働の関係のなかで問題・実績を市と共有しながら、事業を進めていきたいと考え、継続の提案をいたします。

提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)	1. 保全事業 1) 草地の草刈り 2) 湿地の手入れ・キシノウヅなどの外来種除去 3) ゴミ拾い 2. 調査・研究事業（東邦大学・千葉県中央博・茨城県自然博 協力） 1) 植物 2) 動物 両生類・昆虫類・魚類 3) 水質 4) モニタリング ① アカガエル卵塊 ② メダカ ③ ヘイケボタル ④ 一般鳥類 ⑤ 猛禽類 5) 大学(東邦大学・東京大学) の地域の環境に資する研究への協力 ① 植物 ② 昆虫 ③ 湿地と台地の生きものと水環境
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	当会は 2008 年から対象地が千葉県企業庁から印西市と白井市に無償譲渡される前年度まで、企業庁に立ち入り申請を行い、荒廃による環境の劣化を防ぎ、自然環境を維持する保全活動と、高い頻度で現場に入って行う環境調査やモニタリングを展開してきました。市有地となった現在も調査・研究と保全作業をシステムとしてつなげ、里山の自然環境を維持・再生していく活動を続けています。 また、安全面についても定期的に草刈りや草刈り機器の扱い、安全講習を行い、技術と安全性の向上に努めています。 約 10 年間にわたって積み上げて得た保全の方法と、調査による具体的な環境の把握の実績は、今後市が管理保全していく上で参考になるのではないかと考えています。
継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	1. 環境の劣化を防ぎ、生物多様性を維持、育むことができる 2. 里山の景観を良好に保つことができる 今後の展望 1. 市民と行政の協働による里山環境の保全の手法を育てる 2. 都市に隣接した里山の生態系という特質をいかした里山の姿を構築する

協働事業計画書		
事業名	武西の里山 保全と調査事業	
事業の目的	生物多様性のある自然環境を維持・再生する	
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名)かけがえのない自然環境の保全と活用 (部署名)環境保全課	
事業期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～ 平成 32 年 3 月 31 日	
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)	提案者	市
	一、保全事業 <u>1.保全作業</u> 1) 草地の草刈り 2) 湿地・水辺の手入れ 3) ガラス片などのゴミ拾い <u>2. 環境調査</u> 1) 植物調査 2) 昆虫調査 3) 水辺の生きものの調査 4) 水質調査 5) モニタリング ①ニホンアカガエル卵塊 ②キタノメダカ ③ヘイケボタル ④一般鳥類 ⑤猛禽類 二、以上の事業の宣伝と報告	1. 草刈機の貸し出し 草刈り機を貸し出し、運搬する。 2. 貸出草刈り機の燃料を負担する。 3. ゴミの収集 (クリーン印西推進運動) 4. 地元や関係各所との調整 5. 広報いんざい の広報
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	0 円	497,000 円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	環境調査・保全協力: 東邦大学理学部保全生態学研究室 西廣淳氏 同植物生態学研究室 下野綾子氏 植物同定: 茨城県自然博物館 小幡和男氏	

	昆虫同定：日本蜻蛉学会会員 柄澤保彦氏		
協働のメリット （各立場にとっての効果を簡潔に）	提案者	市 民	市
	①市と協働することで団体の事業をより公のものとする ②市と協働することによってフィールドの将来について、より深く協力することができる ③会の特性を生かすことができる	①不法立ち入りや不法なゴミ投棄に対する近隣住民の、心配や不安を取り除くことができる ②生物多様な自然環境を享受することができる ③環境教育や大学等研究機関の研究に役立てることができる	①自然環境の維持と再生を行うことができる ②行政・市民・研究機関との協力による、市の生物多様性保全のモデルケースとして育てることができる
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	市役所にて直接の打合せ・メール・電話		
事業の周知や評価の方法 （具体的な目標値など）	事業の周知：市の広報・チラシ・市の催しなどでの展示・市民活動支援センターを通じた発信・ミニコミ紙・ホームページ 評価：作業前後の写真、事業の記録、環境調査・モニタリングによる結果収集したごみの量		
備 考	関係団体等		
	その他（添付書類等）		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1,326,000 円

市から団体への委託費 （金 497,000 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	作業費、機材購入費、報償費、保険料、消耗品費、印刷費	497,000
その他収入		0
提案者負担分		0
無償労働力等換算金額	無償労働力、無償機材	(829,000)
合 計（無償分を含めない）		497,000
無償分を含めた合計額		(1,326,000)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
作業費	保全作業・緑作の原っぱの草刈り 5,750 m ² ×60 円/1 m ² =345,000 円	345,000
機材購入費	目印用の棒 60 円×50 本=3,000 円 鎌 1,500 円×2 個=3,000 円 熊手 300 円×5 個=1,500 円 ガラス片など除去用ふるい 1,000 円×2 個=2,000 円 シャベル 1,000 円×2 個=2,000 円 ルーペ 2,000 円×5 個=10,000 円	21,500
報償費	刈払機講習会講師謝礼 30,000 円 植物調査講師謝礼 5,000 円×8 人=40,000 円 昆虫調査講師謝礼 5,000 円×2 人=10,000 円	80,000
保険料	ボランティア保険料 30,100 円	30,100
消耗品費	川の水調査セット TZ-RW、パックテスト ZAK-COD など 9,400 円 調査用紙 5,000 円	14,400
印刷費	環境調査報告書の印刷用インク 6,000 円	6,000
提案者が負担する 無償労働力	保全・水辺の整備 5 人×3 時間×5 日=75 時間 保全・ガラス片など除去 10 人×3 時間×4 日=120	(653,000)

	時間 メンテナンス 5 人× 2 時間× 2 日=20 時間 講習会 10 人× 3 時間× 1 日=30 時間 植物調査 4 人× 3 時間× 10 日=120 時間 昆虫調査 3 人× 5 時間× 8 日=120 時間 水辺の生きもの調査 5 人× 3 時間× 2 日=30 時間 水質調査 3 人× 3 時間× 2 日=18 時間 モニタリング調査 3 人× 3 時間× 10 日=90 時間 報告書作成 5 人× 3 時間× 2 日=30 時間 合計 653 時間×1,000 円=653,000 円	
提案者が負担する 無償機材等	小型草刈機 2 台、刈払機 4 台、チェーンソー 1 台など 8,000 円×14 日=112,000 円 気象モニター測定器 1,000 円×32 日=32,000 円 報告書作成用カメラ 1,000 円×32 日=32,000 円	(176,000)
合 計 (無償分を含めない)		497,000
無償分を含めた合計額		(1,326,000)

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
2019 年 4 月	保全・水辺の整備①	5 名
	保全・ガラス片など除去①	10 名
	植物調査①(講師依頼①)	4 名
	昆虫調査①	3 名
	水辺の生きものの調査①	5 名
	モニタリング調査・猛禽類①	3 名
2019 年 5 月	保全・草刈り①(乗用使用①)	11 名
	保全・水辺の整備②	5 名
	植物調査②	4 名
	植物調査③	4 名
	昆虫調査②	3 名
	モニタリング調査・猛禽類②	3 名
	安全講習会	10 名
2019 年 6 月	保全・草刈り②	11 名
	保全・草刈り③(乗用使用②)	11 名
	保全・水辺の整備③	5 名
	植物調査④(講師依頼②)	4 名
	昆虫調査③(講師依頼①)	3 名
	モニタリング調査・猛禽類③	3 名
2019 年 7 月	保全・草刈り④	11 名
	植物調査⑤	4 名
	昆虫調査④	3 名
	モニタリング調査・猛禽類④	3 名
	モニタリング調査・ヘイケボタル①	3 名
	モニタリング調査・ヘイケボタル②	3 名
2019 年 8 月	植物調査⑥(講師依頼③)	4 名
	昆虫調査⑤	3 名
2019 年 9 月	保全・草刈り⑤(乗用使用③)	11 名
	保全・水辺の整備④	5 名
	植物調査⑦	4 名
	昆虫調査⑥(講師依頼②)	3 名
2019 年 10 月	植物調査⑧(講師依頼④)	4 名

2019 年 11 月	昆虫調査⑦	3 名
	メンテナンス①	5 名
	保全・水辺の整備⑤	5 名
	植物調査⑨	4 名
	昆虫調査⑧	3 名
	水質調査①	3 名
	水質調査②	3 名
	水辺の生きもの調査②	5 名
2019 年 12 月	モニタリング調査・メダカ	3 名
	保全・草刈り⑥(乗用使用④)	11 名
	保全・ガラス片など除去②	10 名
2020 年 1 月	保全・ガラス片など除去③	10 名
	モニタリング調査・一般鳥類	3 名
2020 年 2 月	保全・草刈り⑦	11 名
	モニタリング調査・ニホンアカガエル卵塊①	3 名
	報告書作成①	5 名
2020 年 3 月	保全・草刈り⑧	11 名
	保全・ガラス片など除去④	10 名
	植物調査⑩	4 名
	モニタリング調査・ニホンアカガエル卵塊②	3 名
	メンテナンス②	5 名
	報告書作成②	5 名

＊状況によって時期や内容は変更することがある

保全・草刈り	8 日 (2018 年度比 2 日減)
	(うち 4 日、市の乗用草刈機バロネス借用)
保全・水辺の整備	5 日 (2018 年度比 1 日増)
保全・ガラス片など除去	4 日 (2018 年度比 2 日減)
植物調査	10 日 (2018 年度比 7 日減)
昆虫調査	8 日 (2018 年度比 1 日減)
水辺の生きもの調査	2 日 (2018 年度比 1 日増)
水質調査	2 日 (2018 年度比 ± 0)
モニタリング調査・ニホンアカガエル卵塊	2 日
モニタリング調査・メダカ	1 日
モニタリング調査・ヘイケボタル	2 日
モニタリング調査・一般鳥類	1 日
モニタリング調査・猛禽類	4 日
安全講習会	1 日 (2018 年度比 1 日減)

メンテナンス

2 日（2018 年度比± 0）

報告書作成

2 日（2018 年度比± 0）

企画提案型協働事業 武西の里山 保全と調査事業 平成30年度最終審査 委員会総合意見

- 1 印西市における里山保全活動のあり方を考える上で重要な事業であると評価します。協働の新たなモデルケースとして、市の積極的な関わりとともに、幅広い成果の活用と情報発信を期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

里山保全活動の成果の発信に期待！

- ・貴重な自然資産を守ることが大切。今後は情報公開や場所の案内等も進めてほしい。
- ・すばらしい保全・調査事業だと思います。調査結果に関する公的発表を是非やって下さい。
- ・成果はもう少し幅広い市民の間で共有すべきだと思う。
- ・環境保全と共に調査報告書の作成といったアカデミックな事業であると思います。市民への広報・周知を進めていただきたい。
- ・市民への環境教育に関する具体的計画はありますか？
- ・地域の貴重な自然資産の維持の活動は、大変な場面も多いと思いますが、末永く活動が継続されるよう願っております。
- ・成果の集大成として、里山を活用したイベントを行ってはどうか。
- ・すばらしい報告書ができていますので調査結果報告書を活用してほしい。報告会（フォーラムなど）されてみたらいかがでしょうか。

市の積極的な関わりを！

- ・市のメリットとしてあげられているモデルケースをどう活かしていくのか？
- ・「里山活動保全の手法」を市民にどう還元するのか、どう見せるのか、2年目以降、市と検討しながら実施していただきたい。
- ・「印西武西の里整備方針」があり、具体化の方向のようであるので、今後さらに連携を深めていただきたい。共同事業の効果出し期待。
- ・都市に隣接した里山のあるべき姿（印西市版）や里山保全の為の管理原則（ルール）等を構築していただきたいと思います。
- ・整備されている里山に市民がいつでも入り、やすらぎなど感じられる場所になるよう、市の計画を早めてほしい。

その他

- ・協働に関するコストバランスが良いと思いました。但し、研究費が計上されていない理由は何故でしょうか？
- ・なぜか自分達の自己満足で終わっているような気がします。

協働の機会提案書(継続提案用)

2018年9月25日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28-004
名称 NPO法人 里地里山保全ねっと
所在地 印西市美瀬
代表者職氏名 理事長 高橋 幸治 印
連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	前年度は新規事業のため整備作業の開始が遅れたことにより、 <u>不耕作地や農道の雑草や枝の繁茂が進み作業が追付くのに時間がかかった</u> 。このことにより <u>搬出し堆肥化する刈り草の量も大幅に増加した</u> 。 また、休耕田には用水の流入があり止水に時間がかかった。
提案理由	<u>不耕作地等に棲みついたイノシシ対策としては、「捕獲駆除」「防護柵」「生息環境の管理」を同時に実施することが効果的</u> と言われている。印西市で行っている捕獲駆除と電気柵等の防護対策に加え、市民や所有者が共同で <u>不耕作地の整備を行い生息環境の管理を実施したい</u> 。荒れた里山や不耕作地の整備保全活動を進め、 <u>イノシシが生息しづらい環境を作り、市民が安全に印西市の自然環境を満喫できるような里山づくりを行いたい</u> 。
提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)	前年度より実施している美瀬地区の環境整備は継続し、新たに隣接した <u>不耕作地へ整備範囲を拡大する</u> 。また、樹林地からのイノシシの通路となる農道の斜面部分についても高さ2m程度まで篠竹の整備を進める。 イノシシの調査方法として自動カメラ等を設置し夜間の出没調査も実施する。 また、 <u>猟友会の協力を得て箱ワナ、くくりワナを設置し捕獲調査も実施する</u> 。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	いには野地区の住民を中心に設立した里山環境の保全を目的にした団体で、循環型の里山整備を実施している。今年4月にNPO法人化を図り活動の質を高め規模の拡大を行っている。 地域住民が中心となって里山整備によるイノシシ対策を実施することで、住民の環境意識の向上が期待できる。また対象地域の近隣住民の団体が実働・整備することにより、市として直接実施しづらい荒れ地の草刈りや竹林整備等の環境施策が行いやすくなると考えている。

継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	前年実施部分に加え隣接地の不耕作地を整備することで、住宅地との接続部分のイノシシ対策地域が拡大し、農作物被害や住民とイノシシの遭遇機会を減らすことができている。 また、この不耕作地の整備は里山の景観改善にも繋がり、整備地周辺の里山を散策する市民の姿を見かけるようになった。 今後は、散策コースの整備や里山学校のような環境教育も行っていきたい。 更に<u>不耕作地</u>整備の際に出る刈り草や伐採竹の堆肥化等による有効活用を進めて行く。
---	--

協働事業計画書			
事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業		
事業の目的	住宅地に隣接した不耕作地のイノシシ対策として不耕作地の整備を行い、住宅地との間に緩衝地帯を作る。また、整備前後にイノシシの痕跡調査を行い、整備事業の効果検証を行う。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 生産基盤の整備や担い手の確保による持続的な農業の実現 (部署名) 農政課		
事業期間	平成31年4月1日 ～ 平成32年3月31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)	提案者	市	
	- 整備対象地区の所有者との折衝 - 前年整備地の維持管理 - 不耕作地、放置林整備と伐材処理 - 整備地域側道の草刈り整備 - ボランティアの募集・指導 - イノシシの痕跡、捕獲調査	- 土地所有者との折衝補助（紹介・情報提供） - 事業遂行上のアドバイス	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	14,000円		1,168,000円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	林業、農業、環境団体で経験を積んだ指導的会員と、経験2-3年の会員で作業を行い、いには野地区の住民を対象に整備作業の体験会を実施する。 労働安全衛生特別教育修了者4名 狩猟免許取得者3名		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	継続実施することで整備地の拡大が図れ、イノシシ対策の効果拡大が期待でき、地域の安全にも貢献できる。また、団体の活動拡大が期待できる。	不耕作地整備によるイノシシの生息地管理は、住民の安心安全の向上に繋がる。また、景観改善が自然に親しみやすい環境作りとなる。	継続して市民と協働で不耕作地整備事業を行うことで、獣害対策と不耕作地の改善を同時に行う仕組み作りができる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	活動毎に作業報告書を提出する。必要に応じて臨時ミーティングを行う。また、E-mail等でも情報交換を行う。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	団体のブログで活動状況を公表する。会報を作成し自治会や掲示板で活動内容の報告とボランティア募集の通知を行う。 イノシシの痕跡、自動カメラによる撮影、捕獲調査等の比較を行う。		
備考	関係団体等		
	その他（添付書類等）		

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 2,462,000 円市から団体への委託費 （金 1,168,000 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費(刈草処理、伐採竹処理) 818,000 円	1,168,000 円
	車両費、保険料、備品費、燃料費 350,000 円	
その他収入		
提案者負担分	サーバー・ドメイン利用料(年間)	14,000 円
無償労働力等換算金額	労働力 1,080,000 円、 機材 200,000 円	(1,280,000 円)
合計（無償分を含めない）		1,182,000 円
無償分を含めた合計額		(2,462,000 円)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費	刈草処理: 40L/坪×5,000 坪=200,000L	収集搬出作業=33 回/延べ 317 時間 317,000 円
		リサイクル処理=33 回/延べ 333 時間 333,000 円
	竹竿枝葉処理: 2 本/坪×600 坪=1,200 本	搬出処理作業=延べ 60 時間 60,000 円
		竹枝葉粉碎処理=180 円/坪×600 坪 108,000 円
車両費	軽トラック48 回×2,000 円	96,000 円
保険料	傷害保険	50,000 円
備品費	替刃(刈払機/チェーンソー)、チェーンソーオイル、ゴーグル、ブルーシート他	146,000 円
燃料費	ガソリン、エンジンオイル（刈払機、チェーンソー、粉碎機用）	58,000 円
役務費	サーバー・ドメイン利用料 14,000 円/年	(14,000 円)
提案者が負担する 無償労働力	休耕地草刈り管理：5,000 坪=33 回/193 人/644 時間×1,000 円 竹林伐採管理：600 坪=14 回/103 人/283 時間×1,000 円 出没調査見回り：48 回=3 人/57 時間×1,000 円 HP 活動報告作成・更新：48 回×2 時間×1,000 円	(1,080,000 円)
提案者が負担する 無償機材等	刈払機 1,000 円/日×128 台、 チェーンソー1,000 円/日×12 台、 草刈機 5,000 円/日×6 台、 粉碎機 3,000 円/日×10 台	(200,000 円)
合計（無償分を含めない）		1,182,000 円
無償分を含めた合計額		(2,462,000 円)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
4 月上旬	協働事業契約締結、保険契約	(延べ人数)
4 月上旬	今年度の整備対象地域の確認とイノシシの痕跡確認 1 回	3 人
	【不耕作地と農道整備】	
	＊新規不耕作地、農道整備	
4 月～6 月	・草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 10 回	60 人
7 月～8 月	・2 巡目草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 4 回	24 人
10 月～11 月	・3 巡目草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 3 回	18 人
3 月	・4 巡目草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 2 回	12 人
	＊前年整備地の整備	
6 月～7 月	・整備済み地草刈り(刈草収集搬出・リサイクル処理) 4 回	24 人
8 月～9 月	・2 巡目草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 4 回	24 人
10 月～11 月	・3 巡目草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 3 回	18 人
3 月	・4 巡目草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 2 回	12 人
	【竹林整備】(前年整備地)	
6 月初旬	・若竹伐採、搬出 1 回	6 人
7 月中旬	・若竹伐採、搬出・粉碎処理 2 回	12 人
12 月～2 月	・間伐、枯れ竹整備(伐採搬出・枝葉粉碎処理) 7 回	42 人
9 月～3 月	・竹林下草刈り(枝葉粉碎処理) 3 回	18 人
	【一般ボランティア参加】	
6 月上旬	・不耕作地の草刈整備体験会(刈草収集搬出、リサイクル処理)、 イノシシの痕跡調査 1 回	15 人
1 月下旬	・竹林整備体験会(伐採竹搬出、枝葉粉碎処理)、 イノシシの痕跡調査 1 回	15 人
		合計 303 人
	【イノシシ出没調査】	
4 月～3 月	・痕跡調査、自動カメラによる夜間調査、捕獲調査 48 回	作業時実施

企画提案型協働事業
イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
平成30年度最終審査 委員会総合意見

- 1 地域課題を的確に捉えた有意義な事業として評価します。今後は市や関連団体との連携を深め、実態調査など事業効果を高めるための取り組みを進めてください。
- 2 周知活動を通して地域住民との連携を進め、事業を継続する仕組みづくりを検討してください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

有益事業 効果測定について

- ・ 獣害対策と環境保全が結びついた有益な事業であると思います。
- ・ 今回の協働事業を実施することで目に見えた効果はあったのか。
- ・ イノシシの生息数の実態調査等、事業の効果測定の実施・報告をする仕組みを整えて下さい。今後の事業対象地の選定基準を整える際の参考になると思います。
- ・ イノシシの被害、減少など効果が検証できるまでに、時間がかかるとありますが、協働事業終了後、継続していくための仕組みを市と検討しながら進めてほしい。
- ・ 草刈りをしてもなぜかイタチゴッコのような気がします。

地域住民の安心 反応は？

- ・ 地区の人たちが安心して暮らせるよう、環境整備を引き続きよろしくお願いします。
- ・ 住民の反応はどうか？一年間実施状況（推進）の結果の、住民の反応は…。

結果の広報等

- ・ 調査結果について、広く市民に周知・公開する機会をつくっていただきたい。
- ・ プレゼン資料に生物多様性の向上とあるが、どのように向上するか、ねらいと見通しはありますか。

市、関係団体との役割分担

- ・ 協働事業としての市の役割は具体的にありますか。
- ・ 関連団体・市との連携を含め、継続期待。

協働の機会提案書（継続提案用）

平成30年 9月 21日

印西市長 板倉正直 様

（登録者）登録番号 29 — 002

名 称 印西防災研究会

所在地 印西市武西学園台

代表者職氏名 会長 向井地純一 ㊞

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	自主防災組織の活性化事業
現状・課題 （前年度の実施を踏 まえた課題）	印西市の全部の自主防災組織91組織に対して、「自己点検チェックリスト」アンケートを実施。回収64組織、回収率70%であった。その結果、自主防災組織の運営にかなりの濃淡があることが判明。 総合点で見ると、55点以下が61%となっており、底上げが必要となっている。また、55点以上は、優良事例も散見され、その発掘・紹介が必要となっている。加えて、自主防災組織からは、在宅避難のマニュアル化等のニーズもかなり多く出されている。さらに、自主防災組織の未設置率も58%あり、その解消策が求められている。
提案理由	市防災課と協働で、自主防災組織運営の知識の啓発・普及に努め、自主防災組織の活性化に取り組む。
提案内容 （前年度の実施を踏 まえた改善内容）	① 6種類のわかりやすい防災マニュアルの活用や、優良事例の発掘・紹介を通じて、取り組みの遅れている自主防災組織の底上げを図る。 ② 在宅避難マニュアル等の策定 ③ 自主防災組織未設置の解消推進 ・未設置の理由・原因を把握し、設置率10%アップを目指す。 ・自主防災組織設置のための、「規約」「防災計画」「事業計画」のひな型の策定と普及推進
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	印西防災研究会の活動も、メンバー9人で、来年3月で丸4年。市防災課と協働で自主防災組織の活性化に取り組むことができる。
継続実施により 得られる効果 （自由提案型は今後の 展望も記入）	市防災課との協働による、自主防災組織運営の知識の啓発・普及や自主防災組織未設置の解消推進により、自主防災組織の活性化に役立つ。 将来的には、各自主防災組織を横断的につなぐ、「印西市自主防災組織連合会」の新規立ち上げを目指す。

協働事業計画書		
事業名	自主防災組織の活性化事業	
事業の目的	自主防災組織の活性化を目指し、市防災課と協働で①取り組みの遅れている自主防災組織の底上げ②在宅避難マニュアル等新規マニュアルの作成③自主防災組織未設置の解消推進に取り組む。	
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 多様化する災害に対応する、自助共助も含めた防災対策の強化 (部署名) 防災課	
事業期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～ 平成 32 年 3 月 31 日	
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市
	① 「自主防災組織運営」の学習会の開催。 ② 新しいマニュアルの作成 ○在宅避難マニュアル ○地域災害危険の把握 ○自主防災組織運営優良事例集 ③ 既存マニュアルの深掘り ○避難行動要支援者対策 ○避難所運営対策 ○他組織との連携 ④ 自主防災組織未設置の解消推進 ○未設置の理由・原因との把握のためのアンケート調査 ○自主防災組織設置のためのひな型策定と普及推進 ○設置率 10%アップを目指す	・学習会やアンケート対応（策定、送付、回収・整理、対応策）についての支援・指導 ・外部有識者の紹介
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	18,000円	481,700円
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	印西防災研究会 9 名（うち、千葉県災害対策コーディネーター 3 名）	

	提案者	市 民	市
協働のメリット （各立場にとっての効果を簡潔に）	学習会、新規マニュアル作成、未設置解消推進など、防災課との協働により、自主防災組織の活性化が図られる。	取り組みの遅れている自主防災組織の底上げにより、災害対策の予防となる。	印西防災研究会との協働により、自主防災組織の活性化を効率的に図ることができる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	随時、防災課へ事業の進捗状況及び実績を報告。また、メール等で随時情報交換を行う。		
事業の周知や評価の方法 （具体的な目標値など）	自主防災組織に適時、取り組み状況を報告するとともに、市広報誌や HP で取り組み状況を周知する。		
備 考	関係団体等		
	その他（添付書類等）		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1, 363, 700 円

市から団体への委託費 （金 481, 700 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	報償費全額、旅費・交通費全額、消耗品費全額、印刷製本費全額、通信運搬費全額、人件費全額	481, 700
その他収入		
提案者負担分	年会費2, 000/人×9人、使用料・賃貸料全額	18, 000
無償労働力等換算金額	労働力 864, 000円	(864, 000)
合 計（無償分を含めない）		499, 700
無償分を含めた合計額		(1, 363, 700)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
報償費	外部有識者謝礼1回×2人×7, 500円/回	15, 000
旅費・交通費	学習会3回、自主防災組織訪問15回 2, 000円/(月・9人)×18回	36, 000
消耗品費	プリンターインク代 1, 000円/本×4本×9人 用紙代 A4 500枚/束×36束、封筒代400枚等	47, 800
印刷製本費	コピー代50円/製版×200版、印刷費18, 000枚 新しいマニュアル製本代(90か所)	10, 400
通信運搬費	郵便等郵送料(初回250円+返信120円+第2回 140円)×90か所、新しいマニュアル等380円×70 か所、電話料・FAX・ネット通信費1, 000円/月12か月	84, 500
人件費	1, 000円/h×月4時間×9人×3回 学習会 1,000円/h×月3時間×4人×15回 自主防災組織訪問	288,000
使用料・賃貸料	1,500円/月3時間×12か月	18, 000
提案者が負担する 無償労働力	1, 000円/h×月8時間×12か月×9人(アンケート作成、分析・整理、対応策策定、新しいマニュアル作成、既存マニュアル深掘り等)	(864, 000)
提案者が負担する無償機材等		(0)
合 計（無償分を含めない）		499, 700
無償分を含めた合計額		(1. 363, 700)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
3 1 / 4 月 ～ 3 2 / 3 月	○月次活動進捗検討会（1 2 回）	9 人
3 1 / 4 月 ～ 3 1 / 9 月	○新しいマニュアルの作成	9 人
6 月末	① 在宅避難マニュアル（6 月末完成）	（1 人）
6 月末	② 地域災害危険個所の把握（6 月末完成）	（1 人）
9 月末	③ 自主防災組織運営の優良事例集（9 月末完成）	（7 人）
9 月末	○既存マニュアルの深掘り（9 月末完成）	9 人
	① 避難行動要支援者対策	（3 人）
	② 避難所運営対策	（3 人）
	③ 他組織との連携	（3 人）
3 1 / 4 月 ～ 3 2 / 3 月	○自主防災組織未設置の解消推進	
	①未設置組織に対するアンケート調査	9 人
4 月中～5 月末	・作成、送付	
6 月末	・回収	
7 月～8 月	・分析、対応策の整理	
8 月末	・結果送付	
9 月末	②自主防災組織設置のための「規約」「防災計画」「事業計画」のひな型の策定と普及推進	9 人
9 月～ 3 2 / 3 月	③ 対応策の具体化	9 人
3 1 / 6 月、 9 月、1 2 月	○「自主防災組織運営」の学習会の開催（年 3 回）	9 人

企画提案型協働事業 自主防災組織の活性化事業 平成30年度最終審査 委員会総合意見

- 1 社会課題を的確に捉えた、市との協働にふさわしい事業であると評価します。市と密接に連携を図りながら、取り組むべき多くの課題を整理し、計画的に事業が展開されるよう努めてください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

目標を明確に 成果出し期待

- ・協働事業2年目の提案として進展が見られ、それを反映した事業計画だと思います。予定通り実施できるよう頑張ってください。
- ・自主防災組織連合会の新規立ち上げについて、是非実現させてほしいと思います。
- ・2年度目は結果を求められます。防災会ができない事由を調べ、対策を考えていくことが大切だと思います。メンバーの問題、資金の問題、関心を持ってもらうことが色々あります。
- ・より具体的な目に見える目標を掲げてほしい。
- ・事業の主な目的が啓発活動とありますが、成果が不明瞭になりはしないか。

関係先との連携

- ・地域住民の実態把握が難しい中でのチャレンジですので大いに期待します。印西市以外の地域のモデルになることを期待します。
- ・骨の折れる活動である。近隣市町村での活動団体との連携を深めていただければ。
- ・事業ボリュームが大きいようですが、新しいマニュアルの内容も必要な情報だと思いますので、他組織とも連携しながらすすめてください。
- ・民生委員とはどのように連携するのか？

ターゲットとアプローチを絞り込み方法

- ・戸建住宅と管理組合を有するマンションでは防災に対応する状況が異なるが、どのようにアプローチしていくのか。
- ・市全域の現状調査と、良い方向へ向けるための問題をはっきりさせる活動は必要かと思います。活動のターゲットを絞るべきではないでしょうか。

市との連携共同

- ・自主防災組織の実態課題について、団体と市が情報を共有することで、他の関連事業にも効果が波及することを期待しています。
- ・市も積極的に連携を取ってほしい。
- ・協働事業としての市の役割と、実行計画を明確にする必要があるように感じます。

その他／広報等

- ・調査内容やマニュアル等、広報、共有が重要と思われます。インターネット等で検索できるだけでも利用価値が高まるので市のHPと連動できないか？
- ・大地震等が近い将来予想され、必要な事業であると思います。経費の人件費と無償労働の区分がわかりづらいと思います。

協働の機会提案書（新規提案用）

平成30年9月25日

印西市長 板倉 正直 様

（登録者）登録番号 20-001
名 称 NPO 法人 エコネットちば
所在地 印西市竹袋
代表者職氏名 理事長 斎藤 敏男 ⑩
連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
現状・課題 （指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入）	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業の実施
提案理由	市の水生公園構想により整備された竹袋調整池と周辺地域は、景観に恵まれ、四季の花、飛来する野鳥など、豊かな自然を楽しめる憩い場であり、市民や周辺地域の人々に愛されている。この景観と環境保全のために継続した維持管理が必要である。
提案内容 （予算の概算も記入）	花畑と調整池の周回遊歩道沿いの花植え、緑地の草刈、植栽管理、ごみ清掃を実施して、景観維持と快適な環境を維持する。 1. 花畑の整備 2. 定期的な草刈 3. 日常随時のごみ清掃 （概算予算：3,000,000円）
貴団体の特性、協働 で実施するメリット （提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント）	エコネットちばは地元で活動するNPOで、地域住民・地元町内会・商店会・学校や他市民活動団体とも協力して、花畑づくりや地域まつり（コスモスふれあいまつり）を実施してきた。この地域の維持管理を行政との協働事業で実施することで、住民からの信頼期待に応えられる。
事業実施により 得られる効果 （自由提案型は今後の展望も記入）	協働事業に提案実施して10年、継続した維持管理により、環境が保全でき年々花畑も充実してきた。今後もひょうたん島池広場が、憩い、癒し、そして健康増進に、より多くの皆さんに愛され利用される場を提供できる。

(提案書 様式①－３)

共同提案者名簿一覧	
(登録者) 登録番号 名 称 所在地 代表者職氏名 連絡先	— ⑩
(登録者) 登録番号 名 称 所在地 代表者職氏名 連絡先	— ⑩
(登録者) 登録番号 名 称 所在地 代表者職氏名 連絡先	— ⑩
(登録者) 登録番号 名 称 所在地 代表者職氏名 連絡先	— ⑩

※記入箇所が足りない場合は適宜追加してください。

(提案書 様式②)

協働事業計画書			
事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業		
事業の目的	竹袋調整池と周辺地域は景観に恵まれて、市民に愛され憩いの場となっている。この環境を保全するため年間を通じた維持管理を行う。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 緑と調和した生活空間の形成と活用 (部署名) 都市整備課		
事業期間	平成 31年 4月 1日 ～ 平成 32年 3月 31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	○定期的な草刈り ○花畑の整備 ○樹木の管理 ○日常随時のごみ清掃 ○放流口のごみ除去	○維持管理の相談・協議 ○植栽管理の指導・助言 ○花の種の提供	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	40,000円	3,065,000円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	業機械操作・造園作業に精通した会員を指導員として、会員15名とボランティアの協力体制で維持管理する。		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	水辺の維持管理で地域の環境保全ができ、市民に憩いの場を提供できる。ふれあいのまちづくりへ展開できる。	年間通してきれいな水辺を、憩いの場・健康増進の場として利用でき、地域住民と交流の機会が広がる。	市民に愛される魅力ある地域拠点ができ、市民サービスが向上する。更に、維持管理経費が削減できる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	定期的な計画事業の活動報告を行うとともに、随時・異常気象時の巡回報告・協議で安全確保と環境保全に努める。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	市広報、市HPやケーブルテレビ、地域ミニコミ誌等への情報提供、HPや現地掲示板による案内。来場者からの意見・感想聴取。		
備考	関係団体等 木下南口商工会、地域町内会、学校、市民活動団体、他		
	(添付書類等) 竹袋調整池関係図、スケジュール(H30年度版)、アンケート、		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 円

市から団体への委託費 （金 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額		
その他収入		
提案者負担分		
無償労働力等換算金額		()
合 計（無償分を含めない）		円
無償分を含めた合計額		()

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
提案者が負担する 無償労働力	〇〇〇円×〇〇時間×〇〇人×〇〇日＝〇〇〇円	(円)
提案者が負担する 無償機材等	〇〇〇円×〇〇日＝〇〇〇円	(円)
合 計（無償分を含めない）		円
無償分を含めた合計額		()

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
5月中旬～		延べ人数
11月中旬	草刈り作業(7回)	70名
6月上旬～	施肥(6回)	30名
5月下旬～	耕運(6回)	20名
6月中旬～	苗植え(2回)	30名
7月下旬～	種蒔き(2回)	10名
7月下旬～	花畑消毒(3回)	12名
7月下旬	樹木消毒(1回)	4名
10月上旬	水生植物除去	15名
10月下旬	イベント開催(コスモスふれあいまつり)	35名
7月上旬～随時	花畑除草	30名
年間	周辺環境整備(ごみ拾い)	24名
年間	放水口のごみ除去	24名
年間	掲示板、看板類管理	10名
年間	仮設トイレ清掃	24名

企画提案型協働事業 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 平成30年度最終審査 委員会総合意見

- 1 景観保全によるまちづくりに貢献している素晴らしい事業です。活動の継続を見据え、後継者の育成に取り組むとともに、市との役割分担を明確化し、市民の憩いの場を継続するための発展的な方策を検討してください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

活動評価、激励

- ・地域にしっかり根付いた活動だと思います。
- ・大変かと思います。頑張ってください。
- ・トイレのメンテは大変だと思いますが、しっかりお願いします。
- ・トイレ設置は良い。
- ・蓮の花が減少し、雑草が池内に増えている。
- ・周囲は手入れが良いが池内には課題があります。

後継者育成

- ・継続が必要なので、後継者の育成が課題であると思います。
- ・担い手が増えるような広報活動も頑張ってください。

市・関連団体と連携、役割分担

- ・調整池の市と市民団体の適切な役割分担がはかられていると感じます。
- ・課題については是非市と相談されて、できる所から解決していただきたいと思います。
- ・調整池の機能維持と周辺地域の環境整備が円滑に実施されるよう、団体と市担当部局との意見交換、情報交換を定期的に実施して下さい。
- ・調整池を公園のように。調整池活用の一つのケースだと思います。